

第4次府中市生涯学習推進計画の策定に係る課題の整理

第3次府中市生涯学習推進計画 推進における課題の整理

生涯学習を取り巻く社会潮流や市の状況、市民意向や第3次計画の達成状況などの結果を、次のとおり分類し、第3次計画の「基本施策」ごとに留意点・課題を整理しました。これらの課題等を踏まえて、第4次計画の方向性を定めます。

- A：生涯学習をめぐる動向（社会潮流・上位計画等）からの留意事項
- B：府中市及び生涯学習の現況（市の状況（人口・施設利用状況等））からの課題
- C：第3次計画の達成状況（施策・事業の進捗状況）及び審議会グループワークからの課題
- D：第11期府中市生涯学習審議会答申からの課題（令和7年2月）
- E：令和7年度第5回審議会からのご意見
- F：市民意向（市民アンケート、団体ヒアリング）からの課題

基本施策1 誰もが学べる環境づくり

新たな参加を促すための学習環境づくり/多様な市民層に合わせた学習環境づくり/
気軽に参加できる学習環境づくり

留意事項 A (動向)	<ul style="list-style-type: none"> ○目標8 リカレント教育、高齢者の生涯学習（第4期教育振興基本計画） ○今後の学びの在り方：デジタル化による誰一人取り残されない社会の実現、社会的に制約のある方々の学習ニーズの把握・学びを提供すること、各学校教育段階での学び（初等～高等教育、リカレント教育）について重要視（12期中教審：生涯学習分科会） ○ユネスコの提言における優先分野として、国内の関連動向ではリカレント教育、リスキリング、デジタルリテラシー向上等が挙げられる（ユネスコ「マラケシュ行動枠組」）
-------------------	--



課題 B (現況)	<ul style="list-style-type: none"> ○地区別人口は京王線沿線の文化センター圏域（中央、白糸台、片町など）に多い。また、社会教育施設・社会体育施設は共に駅付近に集積しているため、人口の少ない地域や交通拠点から離れた地域からの施設への不便の解消、ICTなどを活用した学習環境の充実が求められる。
課題 C (評価)	<ul style="list-style-type: none"> ○講座等は毎年同じ内容になりがちであり、市民のニーズを捉えた企画力が求められている。（市民の関心にあったテーマ⇒具体的工夫が必要。予算も含めて検討課題） ○子ども・若者・子育て世代・高齢者など各世代（対象者）に合わせた学びの機会・環境が必要。特に若年層の参加は課題。 ○市民ニーズに合った講師やサポーターなど人材確保と活動の場の提供が必要。 ○自宅から参加しやすいオンライン講座やインターネットを活用した情報発信の充実が求められる。 ○障害者の学習事業は、対象を広げたり、地域社会との関わりを重視した運営が求められる。 ○外国人の日本語学習会参加希望者は増加しているが、指導役ボランティアが十分に確保できない。

<p>課題 D (答申)</p>	<p>○デジタル化が様々な場面で浸透している中で、生涯学習におけるデジタル化（デジタル技術を活用した学びの場や、デジタル技術を使いこなすための学び）は遅れている。</p> <p>○主体的学習者としての市民を増やし、そのニーズに応えることが求められている。</p> <p>○人生100年時代、市民の知的能力や創造性を高めるとともに、全世代にわたり健康増進の後押しを行うことが求められており、生涯にわたって学び続けることへの支援が必要。</p>
<p>課題 E (会議)</p>	<p>○デジタル技術を活用した学習（デバイスの利用・AIの利用等）と、それらを使いこなすための学習、また、デジタル・ディバイド（情報格差）を是正する取組が求められる。</p> <p>○オンラインでの学びと対面での学びの「ハイブリッド化」の重要性が高まっている。</p> <p>○現在、学習活動に参加していない人や、足を運ぶことが難しい人へのアプローチも重要。（多世代交流や身近でふらっと集える場、主体的に参加できるきっかけづくりなど）</p> <p>○地域によっては文化センター等の拠点が遠く、利用のハードルが高い。ついでに何かできるなど、複合的な仕組みが必要。徒歩圏内（日常生活の動線上）ということも重要。</p> <p>○人生100年時代を迎え、多様なライフコースが形成される中で、高齢期の捉え方も含めた生涯を通じた学びの在り方を見直す必要がある。</p>
<p>課題 F (市民意向)</p>	<p>○「生涯学習」の概念が市民に十分定着しておらず、個人の日常的な身近な活動も含めて生涯学習に通じるという考えを、継続的にあらゆる市民に広く浸透させることが必要。（ヒア）</p> <p>○生涯学習の裾野を広げるためには、地域活動に参加が少ない層（男性など）への働きかけを含め、参加の「きっかけ」づくりと、参加につながるまでのフォローが重要。（ヒア）</p> <p>○知識の習得にとどまらず、「自分で考える」ことを重視した学び、意見を交わす「対話」の学びが必要。また「府中市」独自の学びの受け皿も求められる。（ヒア）</p> <p>○障害の有無にかかわらず誰もが対等に意見を交わせる「建設的対話」の場が重要。（ヒア）</p> <p>○講座内容が一部の層に偏り、多様な世代が参加しやすい構成になっていないことに加え、人気講座への集中や、時間帯や費用、デジタル環境への対応といった参加のハードルが高い状況。誰もが参加しやすい講座づくりに向けた内容の多様化と支援環境の整備が重要となる。（ヒア）</p> <p>○生涯学習ファシリテーター制度や府中カレッジ100、出前講座など、既存制度の活用が十分でなく時代に合わないもの増えていることから、再編・改善が求められる。（ヒア）</p> <p>○現在は学んでいない方は2割で、将来的には1割未満となり、将来の学びの意向が高くなっている。現在は「忙しさ」や「経済的余裕」、「時間帯」、「情報不足」、その他「敷居の高さ」などから参加に至らず、新たに参加できるきっかけが不足している。（市民アンケート）</p> <p>○学習方法は、現在も将来の意向もスマホ・パソコンなどオンラインを中心とした学習が多い一方、将来は図書館や文化施設、生涯学習センターや文化センターの講座など対面での学びのニーズも高いことから、ハイブリッドの学習環境が重要となる。（市民アンケート）</p> <p>○生涯学習活動を盛んにしていくためには、働く世代や子育て世代、若者世代など、各世代のニーズに応じた講座・プログラムの充実が求められており、各地域の文化センターへの要望からも、こうした課題が明らかになっている。（市民アンケート）</p> <p>○生涯学習活動が幸福感や生活の質（ウェルビーイング）の向上につながると考える人は約7割以上を占めている。現在の経験との相関をみると、現在学習活動に参加していない人ほど、その割合が低く、経験によって効果の感じ方に差異があることがうかがえる。（市民アンケート）</p> <p>○高校生などの若者世代では、学校の勉強以外に取り組んでいることがある割合が約6割で、学校の勉強や今取り組んでいることを「将来にいかしたい」と考える割合は8割を占める。今後の取組の意向としては、「音楽・パフォーマンス系」「資格・スキル取得系」「美術系」などが多く、自宅での学習を希望する傾向がみられる一方、府中市内での学習を希望する割合も1割程度あり、地域で学べる機会の充実も求められる。（若者アンケート）</p>



- 人口分布や施設立地の偏り、講座の時間帯や情報不足などにより、地域や世代、ライフスタイルによる学習機会へのアクセスに差が生じている。特に、若年層や働く世代、子育て世代、障害のある人、外国人など、多様な市民が参加しやすい環境の整備が十分とは言えない状況にある。現在学んでいない人も含めて新たに参加できるきっかけづくりや、人生 100 年時代を見据え、ライフコースに応じて多様な世代が身近で気軽に集い学べる環境の充実が求められている。
- デジタル化の進展等により個人でのオンライン学習志向が強まる一方、将来の意向として生涯学習関連の施設などでの対面による学びへのニーズも高まっている。リカレント教育、デジタルリテラシー向上などの社会的動向を踏まえつつ、学習へのアクセス向上の観点からも、生涯学習分野におけるデジタル技術の活用や、デジタル技術を使いこなすための学び、また、オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド型の学習環境の整備を推進していくことが必要である。
- 生涯学習の意義や、その効果に対する理解が市民に十分浸透していない中で、既存制度（府中カレッジ 100 や出前講座等）の活用も限定的となっている。このため、市民の主体的な学びを支える上で、各施策や制度の周知の充実と時代に即した見直しを進めていく必要がある。

基本施策2 誰もが活躍できる環境づくり

生涯学習と地域還元をつなげる事業の実施/生涯学習を地域づくりにつなげる人材の育成や登用/市民が活躍できる場の拡大

留意事項 A (動向)	<ul style="list-style-type: none"> ○目標9 コミュニティ・スクール、目標10 社会教育人材の養成（第4期教育振興基本計画） ○今後の学びの在り方：地域コミュニティへの社会教育人材の役割が重要視。（第12期中教審：生涯学習分科会） ○地域コーディネーターの役割強化や地域学校協働活動の推進、高齢者の社会参加促進、都立学校の地域交流拠点化の推進。（都生涯学習審議会 H31 建議） ⇒地域と学校がより一体となった「地域とともにある学校」への発展が求められる。（都立学校の地域プラットフォームの拠点へ活用）（都生涯学習審議会 R6 建議）
-------------------	---



課題 B (現況)	<ul style="list-style-type: none"> ○社会教育関係団体では、音楽、美術・工芸、舞踊・演劇、軽スポーツが全体の3分の2以上を占める：団体の活動実態に応じた適切な支援が求められる。 ○生涯学習サポーター登録者数は年々減少傾向にあることから、担い手確保のための登録制度の周知、時代やニーズに沿った登録制度の見直しが必要。また、ファシリテーターも含めて役割について正しい理解や認識を広めていくことも重要。
課題 C (評価)	<ul style="list-style-type: none"> ○市民ニーズに合った講師やサポーターなど人材確保と活動の場の提供が必要。（※再掲） ○生涯学習サポーターの登録、生涯学習ボランティア入門講座受講者の生涯学習ボランティア団体への登録が進んでおらず、登録につなげる工夫が必要。 ○生涯学習ファシリテーターの地域での活動についての支援の仕組みが求められる。 ○生涯学習ファシリテーター、生涯学習サポーターなど様々な人材が乱立しており、統括して調整する機能が必要。 ○生涯学習フェスティバルはコロナの影響で一時的に縮小した参加者が回復傾向。今後は若者など幅広い世代の参加が期待される。 ○自宅から参加しやすいオンライン講座やインターネットを活用した情報発信の充実が求められる。（※再掲） ○大学や企業との連携が必要であり、大学生を地域参加に促す取組なども若い世代の参加促進となる。 ○学校支援ボランティアでは、学校と地域の協働活動による双方向の関係が求められている。
課題 D (答申)	<ul style="list-style-type: none"> ○講座を受講して終わりではなく、より主体的に学びたいと思う人たちへのサポート体制（相談機能や生涯学習ファシリテーター、サポーターの活用）の一層の充実が求められる。 ○「学び返し」は、様々な知見や技術を育んできた市民と、何かを新しく学びたい市民とが有機的につながることで実現可能だが、市内にどのような学習資源（人や組織）があるのか、資源とつながるにはどうすべきか、人や組織間を橋渡しする機能が十分に構築されていない。 ○「学び」と「学び返し」及び「実践」の循環を促すため、市民活動センターとの連携が必要。 ○次世代を担う子どもたちに対する地域社会による教育力を促進するため、教育施設や博物館との連携が重要。
課題 E (会議)	<ul style="list-style-type: none"> ○社会教育人材、リーダーなど「教える側・担う側」を中心に捉えられがちで、本来の世代を超えた日常的な関わりの中で自然に生まれるような学びの視点と場づくりも重要。 ○デジタル化の進展の中で、サポーターやファシリテーターには、AIではできない関わり方や支援といった付加価値がより求められる。それに伴う育成と価値提供の仕組みづくりも進める必要がある。

課題
F
(市民
意向)

- 講座や学習、生活や仕事で身に付けた知識・経験を、地域や社会で生かすための仕組みづくりが重要。受講後に活動につながりやすい仕組みや、気軽に相談・交流ができる場、また、ボランティア・活動団体への参加への支援などが求められる。(ヒア)
- 「学び返し」は、現状自然発生に任されており、十分に広がっていない。また、生涯学習ファシリテーターやサポーター等の担い手の役割が明確でなく、推進していくための仕組みづくりが課題となっている。(ヒア)
- 分野の枠を超えて「生涯学習」を共通の視点とした連携を進めることが重要。地域団体(NPO)や学校、企業などと市が伴走的に連携できる仕組みの構築が課題。(ヒア)
- 活動団体の担い手不足・高齢化が進む中、団体同士のつながりや行政との連携、情報発信や相談対応など団体を支える仕組みが十分に整っていないことが課題。また、若い世代の参加参入や、市民活動へと広がるリーダー育成、世代間交流の促進など、持続的に活動を支える協働体制の構築も求められる。さらに、活動環境を改善していくことも重要。(ヒア)
- ボランティアへの支援とともに、デジタル普及ボランティアの募集や運用など時代に合わせたボランティアの支援や具体的な活動へのサポート体制の強化が求められる。(ヒア)
- 現在グループで学習・活動をする組織に参加している方は1割にとどまっている。年代別にみると60代では2割、70代以上では約3割と年齢が上がるにつれ参加率が多くなっており、地域や団体活動へは特定の世代の参加が高いことがうかがえる。(市民アンケート)
- 学んだ知識・技能や経験を地域・社会でいかしたいと考える方は約4割にとどまっているが、その内容は資格等をいかした職業を通じた社会貢献や、仲間内・サークルでの教え合い、子育て支援活動などへいかしたいとの意向が高い。一方で、こうした意欲を実際の活動につなげるためには、「活動参加のきっかけづくり」や、「いかしたい人と活動の場を結びつけるコーディネーター機能の充実」など地域活動につなげる仕組みが課題となっている。(市民アンケート)
- 「学び返し」の実践経験がある方は1割にとどまっており、内容としては子ども達への指導が多くみられる。一方で「学び直し(リカレント教育)」が混同されているケースもみられ、概念が十分に浸透していない状況である。(市民アンケート)
- サポーター登録制度やファシリテーター・サポーター養成講座の認知度は1割に満たず、登録や講座参加の意向も約3割にとどまる。年代別にみると、30代~40代でやや登録意向が高いものの、全体として人材の掘り起こしや育成につなげる取組強化が求められる。(市民アンケート)
- 地域学校協働活動への参加意向は、「今すぐにも参加したい」は1割に満たないものの、「今後参加したい」「活動内容によっては参加したい」を合わせると約3割となっている。年代別にみると、特に30代での意向が高く、子育て世代を中心に潜在的な担い手層が一定程度存在していることがうかがえ、実際の参加につなげるための工夫が求められる。(市民アンケート)
- 高校生などの若者世代では、府中市内の行事やイベント、ボランティア活動への参加経験が2割で、内容は「行事やイベント」への参加が多くを占める。一方、今後市内の人から何かを教わったり、共に取り組んでみたいと考える割合は1割に満たず、分からないも3割となっていることから、地域との関わりが広がりにくい状況がうかがえ、若者が地域とつながる機会づくりも検討していく必要がある。(若者アンケート)



○身に付けた知識・経験を、仲間内や、地域・社会でいかしたいという意向は一定程度あるものの、実際に活動につなげる仕組みは十分に整っていない。「学び返し」の概念も十分に浸透しておらず、自然発生に任されている状況にある。学びたい人と成果をいかしたい人をつなぐコーディネーター機能の強化や、気軽に相談・交流できる場の整備など、学びと実践を循環させる仕組みづくりが求められる。

- 地域活動や生涯学習を支える担い手について、サポーター登録者数の減少や、団体における担い手不足・高齢化が進んでいる。また、ファシリテーターやサポーターなどの役割が分かりにくく、制度の認知や活用も十分とは言えないことから、周知啓発の強化が求められる。若い世代や子育て世代など潜在的な担い手層を含め、幅広い世代の参画を促すきっかけづくりを進めるとともに、市内の学習資源（人や組織）の発掘を図ることが重要となる。
- 地域、団体、学校、大学、企業、行政などが連携し、生涯学習を共通の視点として市民の活躍を支える体制が求められている。より地域において学びを支え、展開していくためには、コミュニティ・スクール（府中市版CS含む）との連携も含め、分野や組織の枠を超えた連携の強化が求められる。また、団体同士のつながりや情報共有、相談体制の不足により、活動が個別・断片的になりがちであることから、団体やボランティアを継続的に支える協働の仕組みづくりも進めていく必要がある。

基本施策3 生涯学習を支える基盤の整備

生涯学習の広報の強化/施設と事業の連携/生涯学習の推進の充実/
安全・安心に利用できる施設の環境づくり

留意 事項 A (動向)	<p>○ユネスコの提言における優先分野として、国内の関連動向ではデジタルアクセスの公平性、多様性・学びのセーフティネット等が挙げられている。(ユネスコ「マラケシュ行動枠組」)</p> <p>○地域コーディネーターの役割強化や地域学校協働活動の推進、高齢者の社会参加促進、都立学校の地域交流拠点化の推進。(都生涯学習審議会 H31 建議)</p> <p>⇒地域と学校がより一体となった「地域とともにある学校」への発展が求められる。(都立学校の地域プラットフォームの拠点へ活用)(都生涯学習審議会 R 6 建議)(※再掲)</p>
-----------------------	---



課題 B (現況)	<p>○地区別人口は京王線沿線の文化センター圏域(中央、白糸台、片町など)に多い。また、社会教育施設・社会体育施設ともに駅付近に集積していることから、人口の少ない地域や交通拠点から離れた地域からの施設への不便の解消、ICTなどを活用した学習環境の充実が求められる。(※再掲)</p> <p>○年少人口、生産年齢人口は年々減少傾向にあるのに対し、老年人口は増加傾向にあることから、人口構成を考慮した環境づくりが必要。</p> <p>○生涯学習センターでは音楽関係の施設の稼働率が高い。また、美術関係の諸室(工房や版画室)など市内の他施設にはない室もある状況。今後の、新センター建設に伴う機能移転なども鑑みて、利用状況に応じた施設と館内設備のあり方は要検討。</p> <p>○文化センターのうち、中央文化センターに所属する団体が最も多く(全体の3割)、地域別の施設稼働状況にも差がある。そのため、利用が少ない施設は、設備の老朽化や室構成、利便性等が影響している可能性があり、施設間の機能格差の把握と改善が求められる。</p> <p>○府中の森芸術劇場ではリハーサル室・音楽室などに比べ、会議室の稼働率が低い。市民活動センタープラッツでは会議室及びスタジオの稼働率が高く、料理室の稼働率が低いなど、施設間での需要に偏りがみられる。市民・団体ニーズと施設機能が対応していない可能性があり、稼働状況に応じた室用途の見直しや活用促進が課題。</p>
課題 C (評価)	<p>○市のホームページと生涯学習センターのウェブサイトの更なる情報の充実と利便性の向上、積極的な情報発信が課題である。紙媒体に加え、若い世代に向けては SNS の活用が重要。</p> <p>○学びのネットワークの点では、施設間の連携・連絡会議の体制を構築する必要がある。</p> <p>○大学等との連携拡大が必要であり、大学生を地域参加に促す取組なども若い世代の参加促進となる。(※再掲)</p> <p>○学びのサポートの点では、常時相談に応じることのできる人材の確保が求められる。</p> <p>○自宅から参加しやすいオンライン講座やインターネットを活用した情報発信の充実が求められる。(※再掲)</p> <p>○生涯学習活動に重要な施設である図書館を計画に位置付けるべきである。</p> <p>○外国人の方に向けた各種案内等の多言語翻訳を更に進める必要がある。</p> <p>○児童館、放課後子ども教室、学童クラブなど子どもが安全・安心に利用できる環境整備が必要。</p>
課題 D (答申)	<p>○学習活動に集う市民の高齢化が進む中で、若い世代を含む多様な市民による新しい学習グループの形成に、生涯学習センターや地域の生涯学習の拠点である文化センター(公民館)があまり寄与できていない。</p> <p>○生涯学習センター・文化センターの活動の広報が足りず、若い世代を取り込むことが不十分。</p> <p>○社会教育・生涯学習に関連する多様な施設(文化センター、図書館、博物館、美術館、劇場、市民活動センター、男女共同参画センター等)と生涯学習センターの連携が足りておらず、学</p>

	<p>校との協働も強化する必要がある。</p> <p>○様々なメディアを活用できる環境の整備も求められている。</p>
<p>課題 E (会議)</p>	<p>○現在の生涯学習センターは駐車場の利便性が高く、来館のしやすさやリピーターの確保につながっており、公共交通の縮小が懸念される中では、今後の集客を支える手段として駐車場が重要となる。徒歩圏内での学びの場づくりとの両立を含め、拠点施設におけるアクセスの在り方を整理することが求められる。</p> <p>○学校施設の生涯学習活用に向けた国の動きを踏まえ、今後市において学校施設の統廃合が進む場合には複合施設化の可能性を含めた検討も求められる。</p> <p>○図書館は拠点の一つであるが、計画における位置付けがなく十分に反映されていない。</p>
<p>課題 F (市民 意向)</p>	<p>○生涯学習に関する情報発信が、媒体・対象者は共に十分に行き届いておらず、「知らないから参加できない」層がいる。多言語対応・やさしい日本語、発信の機会の拡大なども含め、多様な市民に届く発信体制の強化が求められる。(ヒア)</p> <p>○市内の豊富な生涯学習関連施設(文化センター、プラッツ、博物館、美術館など)の連携強化が重要となっている。(ヒア)</p> <p>○プラッツにおいてはアクセス性をいかし、活動しやすい仕組みづくりや、潜在的な関心層へのアプローチなど、多様な世代が集える環境づくりが求められている。(ヒア)</p> <p>○新生涯学習センターの整備・移転・複合化に当たり、デジタル環境や市内外からのアクセスの向上、団体交流の促進など、拠点機能の強化が求められている。また、移転に伴う学習活動への影響を最小限に抑えるための配慮や、活動や学習の場の確保、利用団体との意見交換など、計画的な対応が求められている。(ヒア)</p> <p>○指定管理者任せにせず、市として責任を持った施策の実行や、生涯学習センター運営などへの市民の参画・意見反映の仕組みを整備していくことが求められる。(ヒア)</p> <p>○地域や世代を問わず誰もが安心して学び・活動できる場が十分に確保されていない。特に子どもや中高生が放課後や余暇に利用できる、無料で安全な居場所が不足している。また、障害がある人もない人も地域で安心して暮らし続けられるための施設や制度、人材、支援の仕組みが十分に整ってはならず、誰一人取り残さない視点に立った環境づくりが求められる。(ヒア)</p> <p>○情報の入手先は「広報ふちゅう」が最も多く、今後も力を入れるべきとされている。一方、10～20代から50代では「得る手段が分からない・得ていない」も多く、また、30代以下では「市のSNS」に力をいれるべきとの回答も多くなっており、年代に合わせた効果的な情報発信が求められる。(市民アンケート)</p> <p>○新たな生涯学習センターに求める機能としては、「カフェや休憩スペースの併設」や「多様な講座・セミナーの開催」が多く挙げられている。年代別に見ても同様に高い割合となっているが、40代以下では「子ども・若者向けのプログラム」、60代以上では「高齢者でも利用しやすい環境」へのニーズが高いことから、より柔軟で多様なニーズに対応できる施設づくりが求められる。(市民アンケート)</p> <p>○各地域の文化センターでは、図書館や窓口の利用が6割を超える一方、「各種講座や教室」への要望が高く、利用実態と学習ニーズとの間にギャップがみられる。(市民アンケート)</p> <p>○生涯学習が盛んなまちをつくるために必要なことは、「誰もが安心して利用できる施設環境を整える」が最も多く、次いで「生涯学習の情報を分かりやすく発信する」が挙げられており、ハード・ソフトの両面における基盤整備が重要となっている。(市民アンケート)</p> <p>○自由意見では施設に関する意見が多く、特に施設全般の利便性や利用しにくさを指摘する声が見られた。また、施設の在り方として、子どもや障害のある方を含め、誰もが利用しやすい環境づくりを求める声が寄せられており、居場所づくりやバリアフリー化等の安全性・利便性向上に向けた検討が求められる。(市民アンケート)</p>

○高校生などの若者世代では、府中市内での学習の場として「ルミエール府中」を希望する割合が最も高く、次いで「大学・高等学校」となっている。さらに、「芸術劇場」や「プラッツ」も高い割合を占めており、比較的アクセス性や利便性の高い場所の利用を求める傾向が強いことから、利用のしやすさを踏まえた学習環境づくりが求められている。(若者アンケート)



- 新生涯学習センターの整備を契機として、生涯学習センター、文化センター、図書館、博物館、美術館、芸術劇場、市民活動センター、男女共同参画センター等の各施設間及び学校・大学・企業を含めて連携体制を強化し、学びのネットワークを深めることで、若い世代を含む多様な市民による新しい学習グループを形成していくことが求められる。
- 人口構成の変化や利用ニーズを踏まえた施設間の機能格差の把握と改善、拠点施設の連携など、持続可能な学びの拠点づくりとして機能の最適化を進めていく必要がある。また、交通利便性の低い地域への配慮や、デジタル環境の整備を進めるなど、誰もが学びにアクセスできる基盤づくりが重要となる。さらに、学びに関する相談を受けられる体制や、活動につなぐための案内・伴走支援など、学びの入口から実践までを支える相談支援機能の充実も求められている。
- 生涯学習に関する情報発信が十分に行き届いておらず、「知らないから参加できない」層が一定数存在している。市のホームページや生涯学習関連サイトの充実に加え、SNSの活用、多言語対応ややさしい日本語による発信など、多様な市民に届く情報提供の強化が求められる。
- 地域や世代を問わず、誰もが安心して学び・活動できる場が十分に確保されているとは言えず、特に、子どもや中高生が放課後や余暇に利用できる安全で無料の居場所の不足や、障害のある人、外国人など多様な市民が参加しやすい環境整備が十分とは言えない状況にある。新生涯学習センターの整備を契機に、「学ぶ場」にとどめず、人と人がゆるやかにつながり、安心して過ごせる居場所としての機能も重視し、誰一人取り残さない視点に立った包摂的な学習環境づくりを進めていくことが求められる。